

ICSA (インターネットコンテンツセーフティ協会)

ケーブルテレビ アーキテクト 上山裕史

今号は、ICSA (インターネットコンテンツセーフティ協会) について紹介します。

ケーブルテレビ局の技術者は、プライマリIP電話やインターネットなどミッションクリティカルな双方向アプリケーションに加え、コミュニティチャンネル(コミチャン)放送のためのデジタル放送機器の安定動作に目を光らせています。今回はインターネットコンテンツセーフティ協会(以下、ICSA)について紹介します。

ICSAは、協会のホームページによれば、「2011年3月3日に発足した団体です。児童ポルノ掲載アドレスリスト作成管理団体として児童ポルノ画像が掲載されたサイトに係るアドレスリストの作成・管理を行うなど、インターネットを通じた違法コンテンツの流通を防止するために民間事業者等が講じる各種取り組みを支援することにより、安全なインターネット環境の実現に寄与することを目的としています」(*1)とあります。

図1は、ICSAのブロックリストに掲載されたためにブロックされた場合を示します。「このサイトは児童への著しい権

利侵害である児童ポルノを掲載しているサイトと判定され、児童ポルノアドレスリストに掲載されているためブロックされました」と表示されます。この表示の仕組みが、DNSブロッキング方式です。DNS(ドメインネームシステム)にユーザがアクセスするとき、ユーザの同意を得ることなくユーザがアクセスするウェブサイトのホスト名を検知して、図1の表示を出すホスト名を伝達します。ICSAに加盟する大手国内ISPのDNSサーバはこの仕組みが実装されています。加盟していないISPでもほとんどの場合、加盟する上位ISPよりDNS情報を引いているので結果は同じ結果を得ること

になります。

図2はブロックされたときのネットワークです。DNSサーバから該当サーバの正しい情報が伝えられないので通信できません。パケット解析ソフト:ワイヤシャークとDNS確認ソフト:nslookupにより現象を把握しました。図3は正常な通信が行われる時の様子です。

ISPであるケーブルテレビ局においても、ネットワーク上位で実施されている施策を理解することが、ユーザに良いサービスを届けることにつながると考えます。知識と設備のグレードアップをはかりましょう。

(*1) <https://www.netsafety.or.jp/>

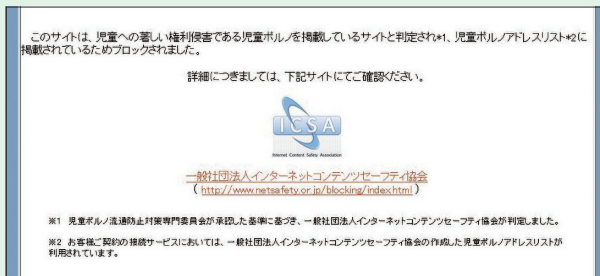


図1:ブロックされた時の表示

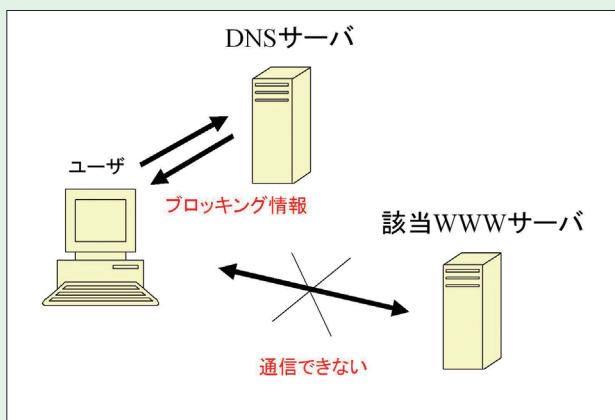


図2:ブロックされた時のネットワーク図

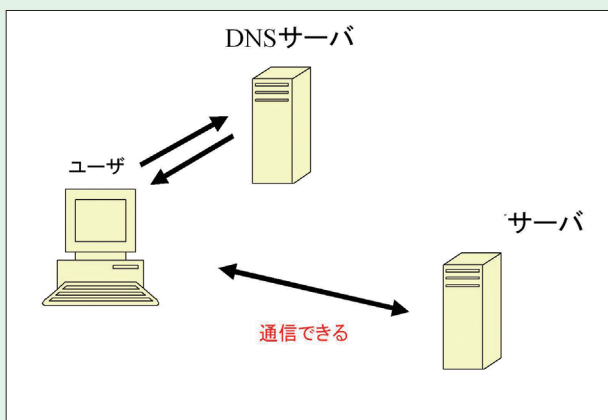


図3:ブロックされないネットワーク図